

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位の値	目標の値	実績の年次値	本年度	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
292061_桜井市	③学校と家庭の課題	家庭等における学習習慣の定着	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の中で「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して、1時間以上と答えた割合が半数以下であり、学習習慣の定着に課題がある。	・1人1台端末を活用して、自分のペースで自分に合った教材や課題を選択できるようにすることで、学習意欲を高める。 ・地域コーディネーターとの連携を強化して、地域人材と学校のニーズとの結びつけをすすめることで、実情に合った活動を展開する。 ・学習支援ボランティアを増やし、放課後・長期休業期間における学習支援を充実させる。	学習習慣の定着が十分と言えない状況が続いているため、学習支援の開催場所や時期を広報したり、自治会や学生等へ募集をよびかけたり、人材バンクの活用等を通して、ボランティア人材の確保を目指し、学習支援を充実させる。また、デジタルドリルの採用を通して、子どもたちの学習意欲を喚起する。	学校以外で日常的に学習を行う児童生徒が増える。	「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して、1時間以上と答えた割合	48	%	55	50	2	「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して、1時間以上と答えた割合が昨年度は48%だったのが、今年度(49.5)約50%と僅かに向上した。 ボランティアの発案による九九教室を開設して毎週実施できた学校や、5時間授業日の6時間目にボランティアによる学習支援をする取組「わくわくタイム」を実施できた学校もある。 ただ、学習習慣の定着が十分と言えない状況が続いているため、引き続き学習支援の開催場所や時期を広報したり、自治会や学生等へ募集をよびかけたり、人材バンクの活用等を通して、ボランティア人材の確保を目指し、学習支援を充実させる。また、デジタルドリルの活用を通して、子どもたちの学習意欲を喚起する。